



英語を即座に読解するための 4つのポイント



大人のためのやり直し英語コーチ

永沢りょうこ

英語を即座に読解するための4つのポイント

英語学習をしている方の中には、TOEIC や各種試験の英文だけでなく、自分の興味のある分野の洋書を読みたい！と思っている方も多いと思います。趣味の本やビジネスに関する本も、英語で読めたら楽しいですね。そのためには「リーディング」のスキルを身に着ける必要があります。

しかし残念ながら、多くの人が非効率的な方法をしがちです。その代表的な物が、昔、学校でやったような「和訳」を頭の中でしながら読むこと、いわゆる「返り読み」。これをどんなにやっても、読解力の向上には結び付きにくいのが実情です。また、単語や熟語の意味をひたすらつなげていっても、英文を読めていることにはなりません。ではどうしたら「真の読む能力」を効率よく培うことができるでしょうか。今回、詳しく解説していきます。

1 そもそもなぜ「返り読み」がダメか

返り読みとは、そもそも何かと言うと、英文を日本語の語順に並べ替えて読むために、英文を前から語順どおりにではなく、後ろやあちこちから日本語に訳して読解することです。

例えば

I read an interesting novel.

「私は面白い小説を読んだ」

英語の意味を上記の和訳としてとらえるまでに、頭の中では

I → an interesting novel →read というように、

英語の語順を「わざわざ」日本語の語順に置き換えて訳してから、意味をとらえているのです。このくらいやってもいいじゃないかと思うかもしれませんが、このプロセスの最大の欠点は何かと言うと「時間がかかる」という点です。

英語は、このような単文ばかりではないのは皆さんもご承知かと思います。

例えば、ちょっと長い文で

I met a Japanese teacher who used to teach us at high school 10 years ago.

この文を見て、和訳「私は、10年前に高校で教えていた国語の先生に会った。」

となるまでに、返り読みしている人の視線がどう動いたかと言うと、

I → met → teacher → who、、、ってことは関係代名詞だから後ろからその前の teacher にかかるから、、、 → 10 years ago → at high school → who used to teach us → a Japanese teacher → (ここで再度) met 会ったんだよな、と

同じところをまた見たりします。このように、一つの文を前から、後ろからひっくり返して並べ替えたり、同じところを2度、3度読むのも、時間がかかる原因。また、この作業をどんなに早く行えたとしても、結局「英語から並べ替えた日本語」を作り、英文の「和訳」を理解しているので、**英語そのものを理解していることにはならないのです**。ですのでこのクセがついている人は、早めに辞めたほうがいいですね。

では、英語そのものを読解していくには何がベストなのかと言うと、いちいち並べ替えて訳さずに、やはり英語の語順のまま前から読んでいくことです。



2 文の構造を理解する

英語ネイティブスピーカーたちは、生まれたときからどっぷり英語環境にいますので、特に文法や構造など意識せずに前から読んでいます。私たちが日本語を読むとき日本語の文法など考えないのと同じです。母国語特有の「感覚」でいけるんですね。しかし、外国語を読む際にはこの「感覚」が自分の中にないのですから、まずそこを作ってあげないといけません。それは何かと言うと、英語の構造を理解する力、つまり英文法力。文法は文法、読解は読解で別個のものではなく、文法が読解の土台になっています。文法があやふやだと思うかたは、今一度、面倒でも基本的な文法を参考書や問題集で一通り押さえておくことをお勧めします。

特に、英語の構造の基本である**文型**は、リーディングには必須です。主語「誰が」・動詞「どうした」・目的語「何を」・補語「(主語や目的語の説明語句)」といった英文の構造のパターンを文型でしっかり押さえておきましょう。

以下が第1文型から第5文型のパターンです。

第1文型 主語 動詞 (誰が、どうした)

第2文型 主語 動詞 補語 (誰は、何者だ or どういう状態だ)

第 3 文型 主語 動詞 目的語 (誰が、どうした、何を)

第 4 文型 主語 動詞 目的語 目的語 (誰が、どうした、何に、何を)

第 5 文型 主語 動詞 目的語 補語 (誰が、どうした、何を、どういう状態に)

ぱっと見長い文でも、実は単なる「誰が、どうした」の主語・動詞の文型だったりすることもあります。文型は 5 つしかありませんので、必ず把握しておいてください。

(おすすめ参考書・問題集)

<https://amzn.to/2LNgcBN> 超基礎文法というだけあって、分かりやすさが好評。中学レベルからの英文法。

<https://amzn.to/2LLWtTh> 高校英文法を基礎レベルから丁寧に解説。練習問題もあり。CDつき。文型も 1 文型から 1 項目ずつ使って解説。

3 かたまりで英語をとらえる

一通り英文法を学ぶと、英語は単語と単語が結びついて、一つのかたまりを作っていることがわかります。例えば、先ほどの例文で言うと、

I read 【an interesting novel.】

この文の中で、an interesting novel は、形容詞と名詞がくっついて、ひとつのかたまり（語句）を作っています。こうしたかたまりはバラバラにせず、かたまりごとにとらえていきます。さらに、先ほど述べた**文法学習で把握した文型に、このかたまりでのとらえ方を乗せていきます**。すると、頭の中の処理としては、

I（主語）→ read（動詞） 「私は読んだ」→ an interesting novel（目的語）
「面白い小説をね」

と、前から順に読めるわけです。きれいな日本語に訳さず英語の語順のままでも理解できますよね？これが「英語の語順のまま理解する」ということです。

そしてさらに、文型がしっかり頭に入っていれば、「ここまでが主語ということ
は、次は動詞が来るはずだ」とか、「これが動詞だから次は目的語が来るはずだ。」

と、ある程度**予測をしながら**英文を読むことができるのです。その「予測」も入れていくと、さらに早く読めるようになります。

前出の長い方の例文

I met a Japanese teacher who used to teach us at high school 10 years ago.

は予測を入れると次のように脳内で処理できてきます。

I (主語) → met (動詞)「私は会った」→ (予測: 誰に会ったんだろう、目的語が次に来るな) → 【a Japanese teacher】 (目的語)「国語の先生に」(予測: なるほど、どんな先生か、きっと次で詳しく言うんだろうな) → 【who used to teach us at high school 10 years ago.】「かつて私たちを教えていた、高校で、10年前」
(関係詞の節が teacher を修飾)

と、英文の構造が頭に入っていれば次に来るものの目星がつくため、多少長い文に出会っても焦らず前から後ろへ読み進めることができます。しかも、目線が一つの英文の中で何度も行ったり来たりしないので、その分、読解スピードとしても速くなるというわけです。

いくつか、長めの文にもトライしてみましょう。

Izu Peninsula is a popular hot springs area located about 1 hour by Shinkansen bullet train.

これを頭から読むには脳内で以下のように処理します。

Copy right© 2019 永沢りょうこ All Rights Reserved.

Izu Peninsula（主語）→ is（動詞）「伊豆半島は」（予測：伊豆半島が何なのか、次に来るな）→ 【a popular hot springs area】（補語）「人気の温泉地だ」（予測：なるほど、さらに詳しい情報が次に来るかも）→ 【located about 1 hour by Shinkansen bullet train】「位置している、約1時間のところ、新幹線で」（areaを後ろから修飾）

そしてもう一つ見てみましょう。

The man accused of theft by the shop owner ran away from the police a month ago.

これを頭から読むには、以下のように処理します。

【The man accused of theft by the shop owner】（主語）「店主から窃盗で訴えられた男は」（予測：何をしたんだろう？次は動詞だな）→ 【ran away】（動詞）「逃げた」（予測：どこからか、次にあるだろう）→ 【from the police】「警察から」
【a month ago.】「一か月前」

というように、文の構造ごとに区切りつつ、かたまりはバラさずに、前から処理していきます。ポイントは、先にも述べましたように、文の構造である文型

をとらえつつ、単語同士のかたまりを正しくとらえて、前から処理するという
ことです。

とはいえ、特にこの「かたまり」を正しくとらえるにはある程度練習も必要で
す。単語同士のかたまりをとらえる練習を、実際にいろいろな文を読みながら
行っていきましょう。いきなり洋書や英語の記事などを読むよりも、単語レベ
ルのにも難しすぎず、解説がついているリーディング用の教材本などを使って
いくのがよいですね。

(おすすめ教材)

<https://amzn.to/2LMpMoC> 英文をかたまりでとらえる練習ができる。取り上
げる英文のジャンルも様々。

4 確認テスト

ではここまででの説明をもとに、振り返りせずに英文を読めているかどうか、実際にいくつか英文を読んで確認してみましょう。

- ① John named the cat he found on the street on rainy day TJ.
- ② The manager of our IT department used to be a chef at a famous restaurant.
- ③ The guy standing at the corner started the project to improve the computer system in the company.

いかがでしたか？英語の語順のまま、前から読めましたか？

各例文を英語の語順のまま理解する思考回路は以下のようになります。

- ① John（主語）→named（動詞）「名づけた」（予測：何を名づけたか、目的語が次に来るな）→ **【the cat he found on the street on rainy day】**（目的語）
「彼が雨の日に路上で見つけた猫を」（予測：何と名付けたのか次に補語があるはず）→ TJ「TJ と」（補語）。

参考和訳：「ジョンは雨の日に路上で見つけた猫を TJ と名付けた。」

- ② **【The manager of our IT department】**（主語）「うちの IT 部のマネジャーは」
→used to be（動詞）「かつて～だった」（予測：かつて何をしていたか次に来

るな) → a chef (補語)「シェフだ」→【at a famous restaurant.】(chef をさらに説明)「有名レストランで」

参考和訳:「うちの IT 部のマネジャーはかつて有名レストランのシェフだった。」

③ 【The guy standing at the corner】(主語)「角に立ってる男は」→started「始

めた」(動詞)(予測:何を start したのか目的語が次に来るな)→【the project】

「プロジェクトを」(目的語)(予測:どんな project なのか次に説明があるだ

ろう)→【to improve the computer system】「コンピューターシステムを改

善するための」【in the company.】「その会社で」

参考和訳:「角に立ってる男は、その会社でコンピューターシステムを改善するプロジェクトを始めた。」

和訳と比べ、英語の読み方だと、前から読んでいっているのが分かりますね。

まとめ：返り読みをしないためのポイント4つ

- ① 基礎文法、中でも文型を押さえておく。
- ② 単語同士のかたまりを見つける。
- ③ 文型にかたまりを乗せて、予測しながら前から読む。日本語に訳さない。
- ④ さまざまな文を読んで実践練習する

以上、返り読みをせずに早く読み解くためのポイントを解説してきましたがいかがでしたでしょうか。

かつては頭の中で和訳して理解していた方でも、このようにして英語を英語の語順のまま読む練習を続けていくと、ある段階から和訳することが面倒にすら感じてくるはずです。日本生まれの日本人（私もですが）は、どうしても最初には日本語を介して英語を理解するのは仕方がないことです。ですが、こうした練習を根気強く続ければ、ある時点からふと、英語を英語のまま理解できる回路が出来上がります。この回路は、リーディングだけでなく、リスニングの際にもとても役立ちますので、最初は慣れなくて大変かもしれませんが、ぜひ粘り強く身に着けていってください！応援しています。